MIYOSHI
CENTRAL HOSPITAL

第26号
2016年5月

市立三次中央病院だより

花みずき

新しく30名の仲間が増えました!

基本理念

私たちは地域の皆様から信頼され
親しまれる病院を目指します

病院長
中西 敏夫

4月14日に熊本県で最大震度7の大地震が発生しました。これまでに地震による死者は49人、関連死疑いが16人、そして今もなお約5万人の方々が避難所や車中での生活を余儀なくされています。

この度の地震でお亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈りし、被災された方々の一日も早い生活再建をお祈り申し上げます。

新年度の病院人事についてお知らせします。

副院長の平田 研先生が退職されました。平田先生は、健診センター、医療事故調査、また産業医として労務管理など多くの職責を担ってくださいました。

とりわけ末永前病院長が急逝された際には、病院長職務代理者として大変なご苦労があったと思います。この紙面をお借りして深く感謝申し上げます。

新たに、副院長には診療部長の立本直邦先生、診療部長には内科主任医長の田中幸一先生が就任されました。今後ますますのご活躍を期待しております。

平成28年度の医師の異動は13名、看護師16名と薬剤師1名の採用です。

平成27年度は、約6億円をかけて電子カルテシステムの更新を行いました。更新に伴いサーバーの設置場所を移設し、隣接する理容室を含め改修して、懸案であった「総合相談室」と「緩和ケアセンター」を設置することにしました。

長い間ご愛顧いただいた理髪は3月末をもって終了させていただきます。病院の意向を汲んでいただいた理容組合の皆様には感謝申し上げます。

近い将来、病院を改築する際には、喫茶・食堂、売店やコンビニ、理容室、休憩スペースなどが一体となった施設をつくりたいと思っています。

医療費について

本年度は2年に一度の診療報酬改定が行われます。診療報酬とは、医療機関等で保険診療の際に医療行為等の対価として計算される報酬です。

市立三次中央病院で診療を受けて窓口で支払いをされる際、診療費請求書兼領収書を発行しています。初・再診料、入院料等、医学管理料、検査、画像診断、投薬、注射、病理診断、DPC包括点数などが記載されており、これらの合計点数（1点10円）が診療報酬です。これらの項目は細かく全国統一の保険点数が決められており、希望されれば明細書も発行しています。

この診療報酬は、なぜ2年に一度改定を行っているのでしょうか。もちろん様々な理由がありますが、しかし本音は、「年々増加する医療費を少しでも抑制したい。」でしょう。診療報酬を大胆に抑制した小泉政権の時期、多くの病院は赤字経営となり、医療は崩壊寸前となりました。その後、診療報酬のプラス改定が行われて病院の収益は少し改善しましたが、国のさじ加減一つで病院の収支が大きく影響される状態は変わりません。

現在は、皆さんご存じのように消費税の増税により、医療費を含む社会保障費に対応しています。

国では、医療費適正化計画（第3期）の策定を各都道府県に求めています。

決して医療費削減とは言っていませんが、その取組みとしては、「住民の健康の保持の推進」と「医療費の効率的な提供の推進」です。前者は、特定健診・保健指導の実施率の向上、禁煙対策、予防接種の普及啓発、生活習慣病（糖尿病など）の重症化予防推進などです。後者は、後発医薬品の使用促進、重複投与や残薬調整（飲み残しを減らす）など薬剤に関したことが大きく採り上げられています。これらの計画は市町での取組みが基本ですが、県では、「健康ひろしま21」や「広島県がん対策推進計画」、「広島県保健医療計画」と連携した施策が推進されています。

前回、医療費の地域格差をお話しました。各県で大きな差があったことを憶えておられるでしょうか。平成26年度の市町村国保1人当たりの医療費は島根県が410,458円で最も高く、最も低い沖縄県287,065円の1.43倍です。

広島県内の市町ではどうでしょうか。直近のデータは平成28年1月の1カ月、国保の診療費、県平均24,817円です。市町の差はどうでしょうか。県内で最も高いのは坂町で約33,000円、安芸太田町、大崎上島町、庄原市、呉市と続き、三次市は15番目で約26,000円です。この後は広島市、三原市と続き、世羅町が約20,000円と最も安い結果となっています。また、75歳以上の後期高齢者は広島県全体で集計されており、約70,000円と極めて高額です。

広島県の一人当たりの医療費は全国的にみても高い水準となっており、医療介護保険課は県内の医療機関が提出した診療報酬明細書（医療レセプト）から高医療費になっている要因を分析しています。多くは生活習慣病に関連した疾患で医療費が高くなっており、この結果からも予防対策を含め生活習慣病関連への取り組みが重要となります。

まずは身近なことから、健診を受けましょう。禁煙を進めましょう。適度な運動と食事、特に減塩を心がけましょう。

副院長・診療部長就任挨拶

副院長
立本直邦（たつもと なおくに）

このたび、副院長を拝命いたしました。

市民の皆さまに一言ご挨拶を申しあげる機会をいただきましたので、よろしくお願いいたします。

私は、昭和61（1986）年に広島大学医学部を卒業後、外科医としての道を歩み始め、大学病院、関連病院、米国で研鑽を積み、平成11（1999）年4月に当院・外科に赴任いたしました。医師になってから30年、三次に赴任して18年目に入っておりますので、半分以上の月日をここ三次で過ごしていることになります。元々は広島市内の出身ですが、三次市が第二の故郷以上の存在になっております。

平成16（2004）年4月から、「診療部長」を拝命いたしておりましたので、中間管理職として医局のとりまとめ役、市長・病院長との橋渡し役を務めて参りました。また平行して、地域医療連携室室長として、地域の先生方・地域の皆さまとも密に関わって参りました。今でこそ、どの病院においても病診連携、病病連携は必要不可欠のことですが、私の赴任当時はまだ十分浸透したものではありませんでした。少し大げさな言い方ですが、自分のライフワークのひとつとして取り組んで参りました。手前みそになるかも知れませんが、備北地区においては、良好な充実した関係を構築できて参ったと思っております。引き続きこれまで以上のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

当院はがん診療連携拠点病院、災害拠点病院等々に指定されています。市長・病院長の深いご理解のお陰もあり、ハード、ソフト両面で充実しており、時代のニーズにも対応した診療が提供できる体制となっております。若い先生方にも有意義な研鑽を積める病院として評価・認識してもらえるようになりました。さらに来年度以降は広島大学のふるさと枠出身の若い先生方の研修も増えると思いますので、ますます活気のある病院になると思っております。

なお、副院長職になると私が外来診療、手術をしなくなるとお聞きすることもありますが、決してそのようなことはなく、これまでと変わらない診療をする事をお伝えしておきます。

これから副院長という重責を担いますが、『私たちは、地域の皆様から信頼され親しまれる病院を目指します。』という病院基本理念をいつも自分の心に誓いつつ、またスタッフも指導しながら、今後も職務に専心精進して参ります。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申しあげます。

診療部長
田中幸一（たなか こういち）

このたび、診療部長を拝命しました。

2000年4月から当院の内科 循環器内科で勤務しています。

本年3月31日に市役所において、増田三次市長から直々に辞令を承りました。増田市長そして市長を選出した市民の皆様の市立三次中央病院への期待と関心の高さをひしひしと感じ、同時に診療部長の責任の重さも感じました。市民の皆様が安心して生活できるように頑張っています。

さて皆様ご存じのように、市立三次中央病院は備北二次医療圏における中核病院です。備北医療圏は人口では県内二次医療圏の中で最少ですが、広大な面積をもっています。このため疾患の発症数は少なめですが、救急疾患発症から病院到着までかなりの時間がかかってしまう患者様が存在するという特徴があります。当院で治療できなければ、さらに1時間かけて他の医療圏の病院まで行かなければなりません。救急疾患ではその間に病状がどんどん悪化してしまう可能性があります。

このような患者様に対して、人口の多い（症例数の多い）地域の病院と同等の、高度で専門的な医療を提供することが、当院に対する市民の皆様の期待であり、当院の最大の責任であろうと考えています。当院には、症例数の問題から一部の診療科や医師を院内に置くことができない（専門医を維持できる、あるいは診療の質を確保できる症例数がない）という問題があります。そのため、当院では完結できない疾患もあります。

しかし、その場合でも緊急処置を行い、状態を安定させて都市部の高度専門病院まで命をつなぐことが必要になります。

市民の皆様の中には、人口密集地にある大規模病院と比べて、当院に対して不満や不足を感じる方もおられるかもしれません。

しかし急病になったとき、大都市の病院やそこに勤務する（神の手を持つような天才？）医師が突然目の前に現れて皆様を治療してくれるわけではありません。この地にいる我々しか治療できないのです。当院や当院の医師の最大の存在意義は、ここに存在することです。

市民の皆様には、少なくともそのことだけはご理解を賜りたいと思っています。そして当院や当院の医師に対してご協力をいただくとともに、是非、病院そして医師を育てる気持ちを持っていただきたいと思います。それが、結局市民の皆様の利益につながっていくはずです。

今後も市立三次中央病院と病院診療部（お医者さんたちです）をよろしくお願いします。

連載 がんの治療⑰ 肝（かん）がん

消化器内科医長 濱田敏秀

肝細胞がんに対する治療について

【はじめに】

肝がんには、肝臓を原発とする原発性肝がんと他臓器がん（胃がん、膵臓がんなど）からの転移により発症する転移性肝がんがあります。このうち、内科的治療が適応される大半は前者で、なかでも慢性肝炎を背景とし発症する肝細胞がんは日常診療において多く経験します。

本誌では、当院消化器内科で実際に行っている肝細胞がんの内科的治療についてご説明します。

【肝細胞がんの診断】

肝細胞がんは、その7割がC型肝炎、2割がB型肝炎を背景に発症しています。そのため、ウイルス性肝炎を患っている方は、早期発見のため血液検査だけでなく定期的な画像検査（エコー検査、CT検査）を受けていただく必要があります。

肝細胞がんの特徴として、発見時には肝臓内のあちこちに多発していることが少なくありません。肝炎の進行例（肝硬変期）に発がんしやすい特徴があり、このことがその後の治療方針に大きく影響します。

【肝細胞がんの治療】

肝細胞がんの治療方針は、「肝がん診療ガイドライン」により概ね確立されており、当院においても本ガイドラインに基づき判断します。

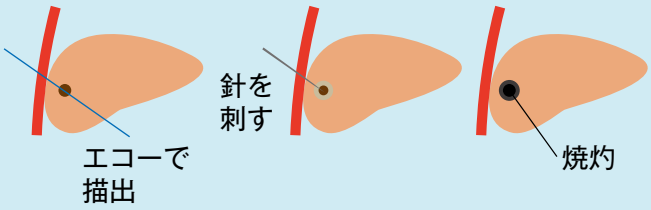
治療方針を決める上で重要な点は、1．腫瘍の大きさ、2．腫瘍の個数、3．肝予備能（肝障害の程度）が挙げられます。

胃がんなどと違い、肝臓は切除できる範囲が限られます。切除が広範囲になると、術後肝臓の機能が不十分となり、肝不全（黄疸、腹水貯留など）に陥ることが懸念されます。肝機能が低下した方ではなおさらです。また残った肝臓からも後に新たな腫瘍が出現することが少なくなく、こういった理由からできるだけ肝臓を残し得る治療が望まれます。

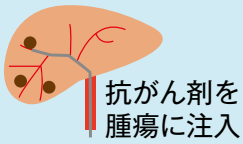
肝細胞がんに対する内科的治療には、大きく分けると経皮的治療と動注化学療法の2通りあり、各々の特徴を活かし使い分けます。腫瘍が小さく数も少ない場合は経皮的治療（ラジオ波焼灼療法など）、腫瘍が多数かつ広範囲にある場合は動注化学療法が適用されます。

治療方法

1. 経皮的治療
主にラジオ波焼灼療法（RFA）；腫瘍を穿刺し，針先3cm程度をボール状に焼く



2. 動注化学療法
腫瘍を栄養する血管から選択的に抗がん剤を投与する。



■特　徴

	利　点	欠　点
経皮的治療（ラジオ波焼灼療法）	小さな病変（2cm未満）ならば外科的治療に匹敵 1週間程度の入院で治療可能	3cm以上ないし多数存在する病変には適用困難
動注化学療法	病変が広範囲かつ多数存在する場合にも適用可能	経皮的治療に比し効果が劣る 繰り返し行う必要がある

【肝細胞がん術後の治療】
―特にインターフェロンフリー治療について―

ウイルス性肝炎（B型肝炎、C型肝炎）が背景にあり発症した肝細胞がんの場合は、がんの治療だけでなく、がん発症の原因となった肝炎ウイルスに対する治療も考慮する必要があります。活動性B型肝炎の場合は、診断が付き次第、核酸アナログ製剤（エンテカビル、テノホビルなど）の内服治療を速やかに開始します。

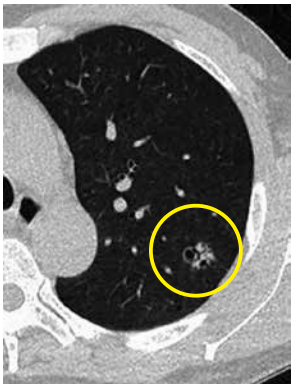
C型肝炎の治療は近年目覚ましく進歩しており、現在は内服のみでウイルスを消滅させうる治療法（インターフェロンフリー治療）があります。インターフェロンを用いた従来の治療法と比較し、副作用は少なく、また治療効果も格段に進歩しています。がんの術後経過が良好な場合、条件が許す限り、肝がん再発を最大限予防するために、当院では積極的にインターフェロンフリー治療を導入しています。

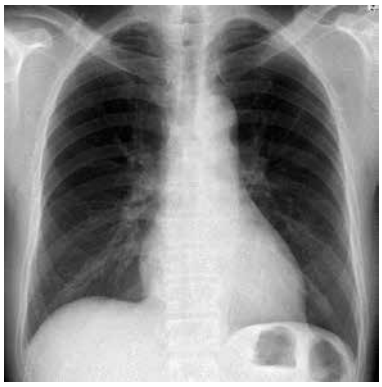
低線量CT肺がん検診

呼吸器内科医長
粟屋 禎一

低線量CT検診とは

日本人の死因の第1位は悪性腫瘍であり、悪性腫瘍の中で最も死亡数が多いのは肺がんです。肺がんの死亡数を減らすためには、肺がんの早期発見が必要です。今までは胸部X線撮影や喀痰細胞診で検診を行ってきましたが、これらの方法では肺がんの早期発見は難しいのが現状です。そこで、最近では被爆線量を通常のCTの1／10程度まで抑えた低線量CTを使った検診が注目されています。単純X線検診では指摘できない早期の病変を、低線量CTでは発見することができます。より早期に発見ができることにより治療成績も良好で、海外でのCT検診の成績では肺がんの死亡率が20％減少し、肺がん以外での死亡も含めた総死亡も6・7％減少したとの結果も出ています。


低線量CT検診で発見した肺がん


胸部X線写真では指摘できない

低線量CT検診の成績

市立三次中央病院では、2015年1月から肺がんに対する低線量CT検診を開始しました。対象者は三次市の50～75歳の男女で、高喫煙者を中心に1,396人の検診を実施しました。

～肺がん検診の結果については～

肺がんが疑われて精密検査を勧められたのは249人（17・8％）、その内実際に受診したのは200人、その中で現在までに肺がんと診断されたのは10人でした〔表1〕。Ⅰ期が10人中9人と早期がんが多く、ⅢA期が1人おられましたが、全例手術で摘出できています。これは海外の報告に劣らず良好な成績でした。

【表1】低線量CT検診の成績（対象者1,396人）

肺がん疑い症例数	249人
受診症例数	200人
肺がん症例数	10人

【表2】低線量CT検診で指摘された他疾患

COPD※・肺気腫	73人	肝臓病変	15人
間質性肺炎，肺線維症	37人	副腎腫大	10人
肺　炎	9人	食道病変	5人
非結核性抗酸菌症疑い	5人	腎臓病変	4人
縦隔腫瘍	5人	乳房病変	3人
縦隔リンパ節腫大	4人	心，血管異常	2人
胸膜，胸壁病変	6人	胃病変	2人
慢性気管支炎	2人	甲状腺病変	2人
無気肺	2人	腹腔内病変	2人
多発性肺結節（胆管がん）	1人	胆のう病変	2人
気　胸	1人	膵臓病変	1人
気管支拡張症	1人	脾臓病変	1人
腋窩病変	1人	筋肉内腫瘤	1人

※COPD（慢性閉塞性肺疾患）

～肺がん以外の疾患については～

肺がん以外の疾患が疑われて精密検査を勧められた人も多数おられました。〔表2〕にその疾患を示しています。最も多かったのはCOPD・肺気腫で、次いで間質性肺炎、肺線維症でした。肺がん以外の悪性腫瘍も2人おられ、現在、治療を行っています。

また、肺がんのみならず他疾患も早期に治療でき、CT検診をきっかけに禁煙を始めた人も多くおられます。

今後もCT検診を継続することで、三次市でも肺がんでの死亡や全死亡が減少してくる可能性が高いと思われます。

外来受診にご理解とご協力をお願いします。

当院は、備北地域だけでなく、安芸高田市、世羅町などの隣接市町や島根県南部にわたる広域の急性期医療や救急医療を担う中核病院です。

精密検査や手術、入院治療等の、より病状の重い患者さんに専門的かつ高度な医療を提供する「急性期病院」として安全・安心な医療を提供しなければなりません。

限られた資源で地域医療体制の充実を図るには、当院と「かかりつけ医」との連携が不可欠です。

■「かかりつけ医」を持ちましょう

日常的な診療や健康管理等を行ってくれる身近なお医者さん、何か病気にかかったときに最初に診てもらう開業医や診療所など、普段からあなたの健康状態や持病などを相談できる「かかりつけ医」を持ちましょう。

①発病時には、まずはお近くのかかりつけの医師に診てもらいましょう。

②さらに、専門的な治療や検査が必要と判断されたら、当院への紹介受診となります。

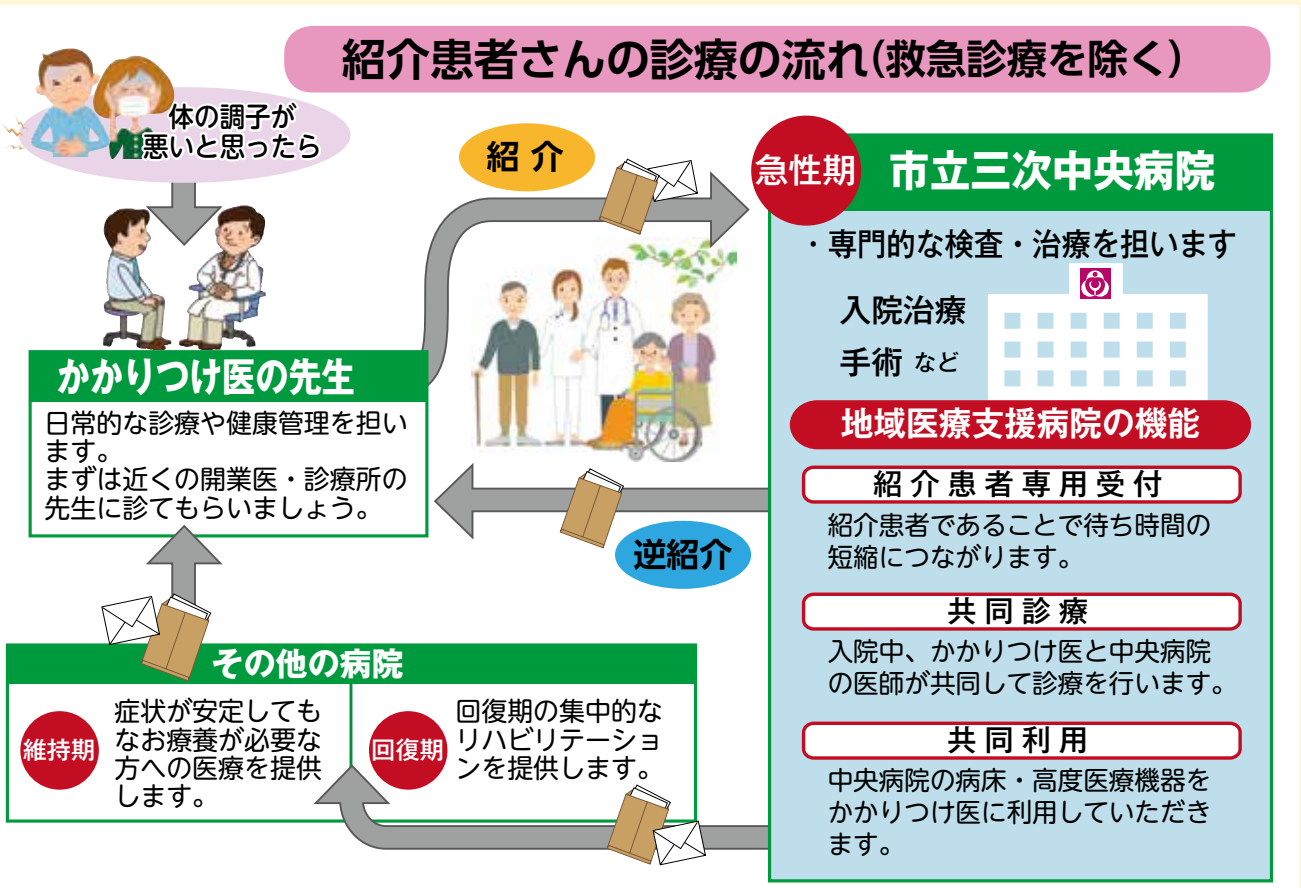
③当院で急性期から病状が安定した場合、完治するまでの段階に応じて、維持期・回復期の治療にあたる病院と連携して、再び紹介元へ逆紹介します。

■当院受診の際は「紹介状」を持参してください

紹介状には、病状、検査結果、処方薬の内容等が記載されています。受診時に医療情報が正確に伝わることで、患者さんの負担を省くことができ、より適切な医療を提供することができます。

当院では、紹介患者さんの診療がスムーズにできるよう、受付カウンターに「紹介患者専用受付」を設置しています。紹介状をお持ちの方はこちらで受付してください。

また紹介状がない場合、初診時選定療養費（紹介状を持たずに当院を初診で受診される場合に保険診療分とは別途ご負担いただく費用）2,160円が必要になります。



※紹介状のない場合は、診察までの待ち時間が長くなることをご了承ください。

太陽光発電設備を設置しました！

平成28年３月に太陽光発電（49kW）及び蓄電池（44kW）を設置し，災害時に負傷された方を診察する場所等の照明の一部をLEDに変更しました。

併せて，歩行困難な方や妊婦さんなどの利便性向上のために屋根付き駐車場10台分を新たに整備しました。市民の皆さんや患者さんにとって，より安全・安心に病院をご利用していただくことができるようになります。

シリーズ 認定看護師

皮膚・排泄ケア　認定看護師

片岡美穂

こんにちは。皮膚・排泄ケア認定看護師の片岡美穂です。

私は褥瘡（床ずれ）やおむつかぶれなどの皮膚トラブルや、人工肛門（ストーマ）などの排泄のケアを専門に行っている看護師です。今回は「ストーマ外来」についてお話します。

ストーマとは「手術で体外に直接腸や尿管などを引き出した、人工的な排泄口の事」を言います。当院でストーマを作られる方は年間20人位です。一時的なストーマもありますが、ほとんどの方は永久的ストーマで、尿管（尿）のストーマよりも腸（便）のストーマの方が多いです。

ストーマ手術を受けられた方は退院後、ストーマ外来（毎週水曜日）でサポートさせていただいています。昨年度は延べ２００名近くの方が外来を受診されました。

『ストーマを作られた方が、生活の質を落とさずに、可能な限り自分らしく生活できるように、患者さんとご家族をサポートしたい』という思いで、かかわらせていただいています。

「高齢になってストーマケアができなくなったら、誰にお願いしたらいいか」「装具が漏れる」「装具を貼っている皮膚がかゆい」など、さまざまな悩みを抱えて受診されます。主治医や皮膚科医師、外来看護師、時には地域医療連携室や訪問看護ステーションと連携しながらサポートを行っています。

今後も色々な思いに寄り添いながら、お役に立てるように頑張ります!!

病院ボランティア募集

～あなたの思いやりを患者さんへ～

市立三次中央病院では、院内でボランティアとして活動していただける方を募集しています。皆さんの善意の活動をお待ちしています。

○活動内容／外来患者さんへの支援
（玄関での車の乗降の手伝い、待合での手伝いなど）
○活動時間／月～金曜日（祝祭日を除く）
８時30分～12時のうち都合のよい時間
○応募にあたって
・交通費を支給します。（市の規定による）
・ボランティア保険は当院が加入します。
○応募・問い合わせ先／医事課医事係
TEL（0824）65-0153　FAX（0824）65-0159
Email：iji@city.miyoshi.hiroshima.jp

Miyoshi Central Hospital
市立三次中央病院だより
花みずき 第26号
2016年5月

がんの早期発見のために

「PET（ペット）検診」をおすすめします。

「PET（ペット）検診」は、がんの早期発見や進行度、転移、再発を調べるための最新鋭のがん検査装置PET-CTを用いたがん検診です。

PET-CT検査は、PET検査とCT検査を一度に行うことで、高い診断精度を誇っています。

PET-CT検査の特長

①短時間で一度に全身のがん検査ができます。

②診断の精度が高く、通常の検診では分からなかった詳細な病変を検出することができます。

③検査の副作用や苦痛はほとんどありません。

三次市PET検診助成制度が始まります

三次市では、20歳以上の市民を対象に、市立三次中央病院のPET検診費用の助成制度が始まりました。

平成28年度中は、検診料金から1万円が助成されます。

これを機に、20歳以上の三次市民の皆さんのご利用をお待ちしています。

通常検診料金
86,400円（税込）

↓

三次市助成制度を利用した検診料金
76,400円（税込）

PET-CT撮影画像

PET-CT装置

■お申し込み・お問い合わせ

お電話，またはホームページからお申し込みいただけます。

①お電話での申し込み
月～金曜日（土日祝祭日・年末年始を除く）　午前９時から午後５時
市立三次中央病院健診センター　TEL:0824-65-0620

②ホームページでの申し込み
「市立三次中央病院ホームページ」の「健診のご案内」→「お申し込み方法」→「PET検診申込みフォーム」からお申し込みいただけます。

病院ホームページをリニューアルしました！

平成28年1月から病院ホームページを更新しました。

- 患者様と医療関係者別など興味のあるところから必要なページにアクセスできるようになりました。
- スマートフォンからも閲覧し易いページ構成になりました。
- 各科の診療内容がより詳細に分かるようになりました。
- 里帰り分娩やPET-CT検診などの申し込みをホームページ上で行えるようになりました。

ホームページURL:http://www.miyoshi-central-hospital.jp/

発行 市立三次中央病院
〒728－8502 広島県三次市東酒屋町531番地
TEL.0824-65-0101 FAX.0824-65-0150
http://www.miyoshi-central-hospital.jp